

第4学年 総合的な学習の時間指導案

期 間	9月～12月
本 時	平成16年10月5日(火)5校時
児 童	男22名 女16名 計38名
指導者	熊谷 英治・菊池 佳緒里

1, 単元名 「海を自慢しよう」 ～じまんしよう! わたしたちの綾里の海を～

2, 単元のねらい

綾里の海やそこで働く人々に目を向けて、綾里の海の素晴らしさを伝える課題を設定することができる。

見学・体験やインタビューなどの方法を目的に合わせて取り入れ、綾里の海について自慢したいことを調べることができる。

自分の伝えたいことや考えが分かるようにまとめたり、発表したりすることができる。

綾里の海の素晴らしさを知り、ふるさとの海を大切にしていこうとする気持ちを持つことができる。

3, 単元について

子どもたちが住む綾里は、多くの新鮮な魚介類の獲れる世界有数の漁場を持つ。そのため、綾里の人々は昔から海と共に暮らし、漁業で生計を立ててきた。綾里の海は自然の宝庫であり、人々の命を支えてきたのである。それは、子どもたちの生きる現代の生活においても変わらないことであり、海の恵み無くしては綾里の人々は生きていけないと言っても過言ではないほど、海と密着して生きている。

また、この綾里の海は、陸中海岸国立公園に指定されている美しい景観のリアス式海岸である。子どもたちはこの海で海水浴や釣りなどのたくさんの楽しみを得て生活している。

そこで、海と関わる自分たちの生活から、綾里の海やそこで働く人々に目を向けて、綾里の海の調べ学習をすることは、綾里の素晴らしさに気づき、子どもたちがふるさとを知り、ふるさとを大切に思う気持ちを持つことにつながると考えた。そして、ここで生まれ育った自分たちが素晴らしいふるさとを持つことに自信を持って生きていけるのではないかと考え、本単元を設定した。

4, 児童の実態

児童は、普段、海で働く人や家族を近くで見て育ってきた。ワカメの芯抜き作業、アワビ獲りなど家族と一緒に働く子どももいる。また、海や川で魚釣りをしたり、水遊びをしたりする子も多く、海に関わって生活している機会が多い。海や漁業、及び魚介類の知識や体験には個人差があるものの、ほとんどの児童は海で何らかの体験をしていて、ある程度の知識は持っている。しかし、自分たちの身近にある海は、自分たちの生活を支える豊かな海であることや、世界有数の漁場であり、国立公園という素晴らしい景観をもっている海岸であるということまで意識している児童は多くない。

児童はこれまでに、「大豆博士になろう」(3学年)で「大豆」をテーマに本やインターネット、インタビューなどで調べながら、畑で大豆を育てて収穫し、とれた大豆を生かして味噌作りを行い、食と環境について考えを深めてきた。また、4年生の1学期には、「障害のある人について調べよう」で、アイマスク体験や調べ学習で得た知識を様々な方法でまとめたりして、身体面でのいろいろな障害や障害のある人の生活を知り、みんなが住みやすい町にするためにはどうすればいいかを考えてきた。

本単元では、自分たちの課題を解決するためにはどのような活動が必要かを話し合いながら、進んで地域に出て行き、人や事象と触れ合う体験を通して興味・関心や意欲を高めて活動ができるようにさせていきたい。自分の課題を主体的に追求していくことを意識させ、自分たちの力で考えながら学習を進めていくことを大切にしたい。そして、主体的に課題を追求していくことにおもしろさや楽しさを見い出していけるように支援していきたい。

5, 指導にあたって

本単元では、綾里の海と親しむ体験（海浜学校）や綾里の漁業の現場を見学したり話を聞いたりしたことをもとにして課題を設定し、様々な方法（見学・体験・インタビューなど）で主体的に調べる活動を行う。そして、自分たちの住む綾里の海の素晴らしさについて調べたことを交流したり、意見交換したりしながら、自分たちのふるさとの海に誇りをもてるようにしていきたいと考える。

「出会う」段階では、1学期に行った「海浜学校」での体験や、普段目にしたり家族から聞いたこと・自らが見てきたことや聞いてきたことなどをもとにして、自分たちの住む綾里の海が素晴らしい所であることに目を向け、綾里の海の素晴らしさを追求していく課題を設定し、主体的に調べようとする意欲を高めたい。「見つめる」段階では、綾里の海のきれいな水や景色・海の恵み・海の楽しさ・海の仕事などについて、様々な方法を使って情報を集めさせていきたい。海のことについて詳しい地域の方々に積極的に活用し、学習を深めることができるようにしていく。「広げる」段階では、調べたことをもとに綾里の海で自慢したいことを様々な方法を使ってまとめさせる。そして、教えて頂いた地域の方々に招待して「2004海じまんコンテスト in 綾里」を開いて調べたことをお互い発表し合い、相互評価し合う活動を通して、これからも自分たちの住む綾里に愛着と誇りを持って暮らす心を育てていきたい。

本単元では、人から話を聞いたり、自分の考えを話したりする活動が多くなると考えられる。そのため、国語科の目標「相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話すことや話の中心に気をつけて聞くことができるようにするとともに、進んで話し合おうとする態度を育てる。」の指導を重点項目として、国語科との関連を図りながら、指導していきたい。

また、本単元では、担任ともう一人の教員との二人体制でTT指導を行い、総合的な学習の時間のねらいにせまる。一人ひとりの児童の課題解決を側面から支援し、自ら学び、自ら考え、主体的に判断できるようにさせる。指導場面では、児童の学習状況を細かく評価・分析しどのような役割分担が効果的なのかを検討しながら進めていく。単元を通してT1T2の主な役割は、T1が学習活動全体の指導にあたり、課題設定や課題追求そして発表・発展へと児童を導く。T2は、T1が指導した結果や児童の学習の状況をチェックし、どんな反応を示しているか、次の指導の手立てはどうかを分析する。またT2は、児童の学習のつまづきや課題解決の悩みなどに適切なアドバイスを与え、自力解決のための支援を行う。さらに、グループの調べ学習の時の見学地への移動や見学地での安全面への配慮も含め、指導・支援にあたっていく。

6, 指導計画（46時間）

流れ	時間	学習活動	教科・領域との関連	具体的な単元名
出 会 う	4	海浜学校	社会（3年） 内容（1）ア	調べてみようわた したちの市・うつく しい海
	2	綾里の海について知っていることを発表しあう。		
	1	学習テーマを決める。		
	2	綾里の海の素晴らしさについて地域の人から話を聞く。		
	1	綾里の海について自慢したいこと（学習課題）を設定する。		

	2	課題ごとにグループを作り、どのようにして調べていくか計画を立てる。		
見つめる	8 4	グループごとに設定した課題について調べる。 ・見学・体験・インタビュー・本やインターネットを利用して、綾里の海について自慢したいことを調べる。 ・調べたことをまとめる。(中間まとめ)	社会(3年及び4年) 国語(3年及び4年) 内容B書くイ 国語(3年及び4年) 内容A話す・聞くア 算数(4年) 内容D数量関係(3)	インタビューコーナー(インタビューの仕方) お元気ですか(手紙の書き方) 新聞記者になろう(まとめ方) かわり方を見やすく表そう
	2 本時	中間まとめ報告会「海じまんコンテスト中間報告会」を開く。 ・ゲストティーチャーを招き、中間まとめへのアドバイスをもらったり、自分たちがさらに知りたいこと・追求したいことを交流したりしながら課題について深めていく。	国語(3年及び4年) 内容A話す・聞くイ	十歳を祝おう(話し方・聞き方)
	2 6	中間まとめの発表会をもとに課題をさらに発展させたり、これからの活動やまとめ方について話し合ったりする。 まとめ・コンテストを意識しながらグループごとに発展課題を調べる活動を行う。		
広げる	7 2 3	どのようにまとめれば効果的に発表できるか話し合い、発表方法を工夫して、グループごとに調べたことをまとめる。 聞き手にわかりやすいように工夫しながら発表の練習をする。 調べたことを、ゲストティーチャーなどを招いて「2004海じまんコンテストin綾里」を開き、発表し相互評価し合う。	国語(3年及び4年) 内容B書くイウオ 国語(3年及び4年) 内容A話す・聞くアウ 道徳(郷土愛) 社会(3年及び4年) 内容(1)ア	調べたことを発表しよう(発表の仕方) 安全な町作りについてい案しよう(まとめ方) グラフをもとに(まとめ方) ふるさとのサクラわたしたちの県と町作り

7, 評価規準

段階	主な活動	課題を見つける力	問題を解決する力	豊かに表現する力	生き方を考える力
出会う	課題設定	郷土の海に関わるものの中から興味・関心をもったものを課題として設定することができる。	調べるための計画を立て、活動の見通しを持つことができる。	郷土の海について知っていることや素晴らしいことについて発表することができる。	郷土の海が素晴らしい海であることに気づき大切にしていくなめの気持ちを持つことができる。
見つめる	課題の追求	調べたことをもとに新たな課題を設定することができる。	本やインターネットを使って、調べたいことの情報収集できる。 調べる内容を深めるために、人から話を聞くことが大切であると気づく。	伝えたいことを明確にし、聞き手のことを確認しながらはっきりとした声で発表できる。 聞いたことの要点をメモすることができる。	多くの人たちが郷土の海の恵みを生かしていることを知ることができる。
広げる	まとめ	郷土の海の素晴らしさを守り続けていくために自分たちができることを考えることができる。	調べた内容をまとめ、郷土の海の素晴らしさについて伝え合うことができる。	表や図を用いながら、伝えたいことが効果的に伝わる方法を選んで工夫してまとめることができる。	綾里の海に誇りをもち、そこで育つ自分に自信を持って、故郷の海をいつまでも大切にしようとする。

8, 本時の指導

(1) ねらい

綾里の海について自慢したいことが、相手に伝わるようにわかりやすく話すことができる。
他のグループの発表を聞いて、調べる活動やまとめ方のよさに気づくことができる。
自分たちの発表を充実させるためにはどうすればよいかを考えることができる。

(2) 基礎・基本の定着を目指して

国語 A 話すこと・聞くこと(1)

ア 伝えたいことを選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話すこと

ウ 互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合うこと

算数 D 数量関係(3)

ウ 資料を折れ線グラフに表したり、グラフから特徴や傾向を調べたりすること。

(3) 本時の流れ

導入段階では、本時は、海自慢コンテスト中間報告会を行うことを確認する。

展開では、3つのグループに中間まとめしたものを発表させ、その後、聞いていた児童から、発表のよかったところや、もっと知りたいことを発表させ、「2004海自慢コンテストin綾里」の発表に向けて、次の活動からさらに何を追求していけばいいのかを考えさせていく。そして最

後に、ゲストティーチャーに各グループの発表に対して専門家の立場から見てのアドバイスをし
て頂き、子どもたちが次の活動でさらに調べていく意欲を持たせる。

終末では、本時の学習の発表の仕方や聞き方についての自己評価・相互評価を行い、それらを
発表させる。

(4) 展開

段階	児童の活動	支援 基礎・基本の定着	評価
導 入 5	1, 本時の学習内容について知る。 海自慢コンテスト中間報告会 2, ゲストティーチャーを紹介する。	発表する時や聞く時の 視点を確認し、目的を 持って中間報告会に参 加することを意識させ る。	
展 開 30	3, 海自慢コンテスト中間報告会を行 う。 ・本時は3つのグループの発表を行 う。 4, 中間報告に対して質問や意見を交流 し合う。 5, ゲストティーチャーにアドバイスを いただく。	発表者は聞く側に自分 たちの伝えたいことが 伝わるように発表する ことを心がけさせる。 聞く側は、発表するグ ループのよさだけでなく 足りない部分やもう 少し調べた方がいいこ とを考えさせる。 効果的な意見が出せる ように助言をする。	自慢したいことが聞 く側に伝わるように 発表することができ たか。(発表の様子) 聞く視点に沿って聞 くことができている か。(プリント) よく考えて意見や質 問を出すことができ たか。 (プリント・発言) 多くの人たちが郷土 の海の恵みを生かし ていることを知るこ とができたか。
終 末 10	6, 学習について振り返る。 ・自己評価・相互評価をする。 7, 次時の学習内容を確認する。	自分の中間報告会への 参加の仕方はどうだっ たかを相互評価しプリ ントに記入させる。	

9, 板書計画

<h1>じまんしよう わたしたちの綾里の海を</h1> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">海じまんコンテスト 中間報告会</div>		
.....グループグループグループ
アドバイス	アドバイス	アドバイス
<h2>2004海自慢コンテスト in 綾里に向けてがんばろう</h2>		

10, 発表形態

